



No.790
2022.11.20

発行：男声合唱団 昴
レッスン会場：
大阪市中央区谷町7丁目1-39
谷町第2ビル308号 ねむかホール
連絡先：090-6058-5652(立川)

10/30 (日)

昴・団内コンサートを開催 17人、3パートが熱唱

男声合唱団 昴 第11回 団内コンサート プログラム

日時:2022年10月30日(日) 集合 13:20 開演14:00 場所:ねむかホール

- | | | | |
|--|--------------------|---|--------------------|
| 1) 開会のあいさつ (坂井 威文) | 13) パート別演奏 (T2) | 【つゆのことくに】
作詞：坂村 貞民
作曲：鈴木 憲夫 | P：中村 聖保 |
| 2) 発声指導 中村 聖保
弾き語り演奏【献呈】
「ミルテの花」より
作曲：シューマン | 14) パート別演奏 (Br&Bs) | 【出発の歌】
作詞：及川 恒平
作曲：小室 等 | P：森 二三
編曲：信長 貴富 |
| 3) 光本章 【オー・ソレ・ミオ(O sole mio)】
作詞：ジョージ・ガブリエリ 作曲：ジョージ・ガブリエリ | | <休憩> | |
| 4) 大橋 一雄 【九十九里浜】
作詞：北見 志保子 作曲：平井 康三郎 | | 15) 土井 一正 【夕星の歌】
作曲：ワーグナー | P：森 二三 |
| 5) 千秋 昌弘 【平和を】
作詞：千秋 昌弘 作曲：森 二三 | | 16) 丹下 莚 【聖なる湖バイカル】
作詞：ダヴィッドフ
ロシア民謡 | P：森 二三 |
| 6) パート別演奏 (T1)
【風よふるさとよ】
作詞：きむらいすみ 作曲：安広 真理 | | 17) 寺脇 伸吾 【人知れぬ涙 (Una furtiva lagrima)】
歌劇 蝶の夢より 作曲：ガエターノ・ドニゼッティ | P：森 二三 |
| 7) 立川 孝信 【幸せになるために】
作詞・作曲：立川 孝信 | | 18) 吉川 勝彦 【シューベルトのセレナーデ】
作曲：シューベルト | P：森 二三 |
| 8) 仲谷 増廣 【防人の詩】
作詞・作曲：さだまさし | | 19) 山本 直一 【春の夢】
冬の旅より 作曲：シューベルト | P：中村 聖保 |
| 9) 奥村 克美 【チェロの四季】
作詞：中島 登 作曲：千秋 次郎 | | 20) 吉岡 敬 【理想の人 (Ideale)】
作詞：エツリーコ 作曲：F・P・トスティ | P：中村 聖保 |
| 10) 更家 幸雄 【悠楽松】
作詞：野上 彰 作曲：小林秀雄 | | 21) 山本 宏司 【マレキアーレ (Marechiaro)】
作詞：S・ジャコモ 作曲：F・P・トスティ | P：中村 聖保 |
| 11) 東尾 博司 【駈者の歌】
作曲：A. グリリオフ | | 22) 伊藤 知 【ロづけ (Il bacio) イルバッチョ】
作詞・作曲：Luigi Arditi | P：中村 聖保 |
| 12) 向井 勝弘 【闘牛士の歌】
オペラ「カルメン」より 作曲：ジョルジュ・ビゼー | | 23) 森 二三 【子犬のワルツ】ワルツ第6番 変二長調 作品64-1 ピアノ独奏
作曲：ショパン | |
| | | 24) 開会のあいさつ (伊藤 知) | |

10月30日(日)、昴・団内コンサートがねむかホールで開催されました。ソロの発表は17人（大島さん病欠欠席）、パート演奏3、加えて中村聖保さんの弾き語りと森二三さんのピアノ独奏があり、熱気あふれる一日となりました。

【開会あいさつ】坂井 威文さん (指揮者)

合唱は、自分一人で歌えなくてもパートで助けられるところがある、それは合唱のいいところでもあるし、裏を返せばデメリットでもあります。合奏に楽器を持ってこない人はいないけれど、合唱はそれが可能な性質があります。



団内コンサートでソロの歌手としての実力を磨くということ、一人ひとりが優れた音楽家になるためにこういう催しがあったらいいなということを昴が実践されているのは素晴らしいことです。

様々な曲をどのように歌われるのか、みなさんの声もじっくり聴かせていただける機会として楽しみにしています。

【閉会あいさつ】伊藤 知さん (副指揮者)

今回は、途中で練習が途切れることもありましたが、精一杯成果を発表することができたと思います。

気が付いたこととして、

- ①歌うとき、目線を上げて歌うともっと良くなる。
- ②自分が気づいていないところで身体が動いてしまう。身体という楽器をうまく使うために無駄なところに力が行かないようにする。ビデオを撮ってどんな格好、顔つきで歌っているか確かめてほしい。

病気を抱えて、体調不良を日常に背負いながら生きているメンバーも何人かいます。その人たちが堂々と力を発揮される姿にジーンとききました。勇気づけられました。

歌える間は頑張って歌いましょう。歌うことで若さが長持ちします。体力が維持でき、生きていく力が湧いてきます。ぜひ、歌い続けてもらって、昴の合唱にも力を入れて練習に励んでください。



光本 章さん 大橋一雄さん 千秋昌弘さん 立川孝信さん 仲谷増広さん 奥村克美さん 更家幸雄さん 東尾博司さん 向井勝弘さん 土井一正さん



丹下 務さん 寺脇伸育さん 吉川勝彦さん 山本直一さん 吉岡 敬さん 山本宏司さん 伊藤 知さん



T1



T2

昂・団内コンサートに思う 中谷清一 (T2)

昂・団内コンサートについて一文をとの要請を受け、あまり団内コンサートに対して熱心でない私は、戸惑いと複雑な気持ちになっています。

私が昂団員であり続けられている1番の理由は、男声合唱団でしか表現できない柔らかく深みのある男声合唱。2番目に力強く男声的な力強い歌声。さらに言えば昂の演奏には、「平和」や「働く人たち」に対する強い連帯のメッセージが込められています。あえて3番目の理由を挙げるなら、腹式呼吸の発声は自分の健康管理に多いにプラスになっています。そんなわけで、自分の住む町にも合唱団が存在するにもかかわらず、わざわざ電車に乗って大阪市内の合歓歌ホールまで通っているのです。

コロナ禍という非日常的な生活も3年目をなりますが、この間、私は団内コンサートのソロ演奏を辞退しています。ここで「団内コンサート」に水を差すつもりはないのですが、自分の「男声合唱団・昂」に対する思いと「昂・団内コンサート」のあり方にしっくりしないものを感じているということも正直な気持ちです。もともと目立つことが嫌いで苦手な私ですが、熱心な団員の人たちに背中を押されて何回かはエントリーをして歌ってはみたが、声量や歌唱力など持ち合わせていないことが身をもって知らされました。ソロ演奏は、個性を前面に出して単独で味わいのある演奏を演奏が求められるのに対して、合唱の魅力は個の声が集団と調和することによってソロでは表現しきれない美しいハーモニーを生み出します。現在の自分の年齢・体力や資質を考えた時、合唱団員の一人として男声合唱のハーモニーづくりに参加できればそれで十分です。そのためには、全体での基本練習・呼吸法や発声訓練には、短時間であっても手を抜かないよう心がけています。ソロ演奏する人もしない人も、「男声合唱団・昂」総体として演奏力アップへと進化することを目指して行きましょう。



中村塾保さん



森 二三さん



Br・Bs

団内コンサートに出演して 仲谷増広 (Br)

歌詞を少し間違えたけれど、自分としてはよく歌えたと思う。「死ぬ。死ぬ。」という歌詞は、聴いている人にはどうかと思うが、いのちを守る、家族を守るという意味深いもので、いい歌を歌えてよかった。

団内コンサートを終えて 向井勝弘 (Br)

コロナ禍ですが、10月30日に一年ぶりの団内コンサート(第11回)が無事開催されました。当初の予想に反して多くの参加者があり、発表曲もカンツォーネなどいろんなジャンルへの挑戦も多く、団員の熱意と努力の跡が見られ、回を重ねるごとにレベルアップしていると感じました。

私は、今回で4回目の参加で、過去3回に比べ準備を整えたつもりでしたが、いざ本番では、何小節かの歌詞が出てこなくて、さんざんな思いをし、発表のむつかしさを痛感いたしました。

古希を前にして、今までにはあまり無かったことが起こっています。ゴルフでも考えられないミスが多く出て、スコアがまとまらず、反省の日々です。

今後は、お客さんを迎えて、団員の努力の跡をミニコンサート形式で発表することも検討してはいかがでしょうか。

一つ、コンサート終盤の見学者が少なかったことが残念でした。